

毎日新聞社主催 私学公開座談会 第31回**22世紀に向けて、強くしなやかに生きるチカラを育てる私学の教育 が開催されました**

12月24日(月)明治大学和泉キャンパスにて、毎日新聞社主催・日能研協賛「公開座談会」が開催されました。このイベントは、「私学にこそある価値は何か」を根幹に置き、毎年その時どきに適したテーマで開催しており、今年度は「22世紀に向けて、強くしなやかに生きるチカラを育てる私学の教育」がテーマです。

通算31回目の開催となった今回、ご登壇の学校の先生は、栄光学園中学高等学校 校長 望月伸一郎先生、開成中学校・高等学校 校長 柳沢幸雄先生でした。さまざまな学校でもエピソードを交えながら、未来に向けた子どもたちに必要な教育とは何か、その思いやお考えを熱く語っていただきました。

先行き不透明の時代といわれる現代ですが、望月先生からは、50年前の東西冷戦、キューバ革命、原水爆実験、中国の文化大革命、公害問題、環境破壊問題、柳沢先生からは、30年前の「イケイケどンドン」と言われた時代の中で、その後の「失われた30年」がやってくるなど、誰も想像していなかったという指摘がありました。

つまりは、過去においても未来の予想はとても難しかったこと、そしてこれからの30年後、50年後の未来を予想することはさらに難しいこと、しかしながらはっきりしているのは、これまでよりも多様化の時代に今の子どもたちが生きていくことは確実であるということです。

そのための教育とは何でしょうか？ 今の子どもたちは、これまでの日本で生きるのではないということです。

柳沢先生は、「授業」「部活」「学校行事」を通して「学び方」「個性」「社会性」を育てることの重要性を、

望月先生は「身体性」「一次情報」「卓越性」という栄光学園での3つのキーワードをあげて「いのち」「人」「リーダー」とは？ を問いかけます。

リーダーは、誰のため？ 何のため？ なのかを常に問いかけ、ロールモデルとなる「師」を探す（この「師」は先生だけではなく、メンターとしての先輩も含まれます）。その人としての成長が中高一貫の私学教育にあることが実感として伝わってきました。

当日の座談会記事は、1月30日(水)の毎日新聞本誌、毎日小学生新聞にも掲載される予定です。

各学校での具体的な事例も語られていますので、詳細はぜひとも新聞をご覧ください。